

新型コロナウイルスの流行下で、公共図書館での電子書籍の貸し出し数が都内でも急増している。いつでもどこでもスマートフォンやパソコンで本を借りて読めるため、来館する必要がない。全国に先駆けて平成19年に電子図書館を導入した千代田区立図書館では昨年、電子書籍の貸し出し点数が前年比273%と大幅に増えた。コロナの流行を機に、図書館利用者の裾野を大きく広げる可能性がある。

(永井大輔)

コロナ禍で貸し出し数が急増

千代田区立図書館の電子書籍の蔵書数は、約1万冊と全国トップクラス。ヒアリングができる英語の学習参考書や、朗読機能付いた子供向けの絵本など、電子ならではの書籍が人気を集めていると。同館広報室の坂巻睦さんは「来館せずに借りられる点が便利で、人気が高まっている。コロナ流行後は、全国の自治体からやり方に問い合わせが増え、広がりを感じている」と期待感を示す。実際、全国の自治体で電子図書館の設置は急速に進んでいる。電子出版制作・流通協議会によると、今年7月1日時点では229自治体が電子図書館を導入しており、前年同期の100自治体から倍以上に増えた。今年度内にはさらに40自治体も導入を予定している。千代田区立図書館では、期間を2年にしては紙の本と同じだ。千代田

区立図書館では、1冊につき1人しか借りられないよう設定しておらず、貸し出し中の資料は予約して順番を待たなければならない。借りた資料は期限が来ると自動的に返却され、端末上で読めなくなる。紙の本は区民以外も借りられるが、電子書籍は千代田区に在住か在学、在勤でなければ借りられないといった違いもある。

一般の電子書籍との大きな違いは、購入金額の高さだ。個人で購入する電子書籍は紙の本より安い場合が多いが、図書館が貸し出しへ用に用意する場合、1冊当たりのコストは紙の本の約2~3倍高額になる。



来館の必要なく

返却も自動

スマホで読める電子図書館人気

はないので、その都度コストもある」と話す。

このほか、図書館向け書籍を販売する図書館流通センター（TRC）が各出版社と協議したりスト

から選書する必要があるため、貸

り出しせる資料がやや古いという制

限もある。

一方の利点として、電子図書館

や図書館運営に詳しい専修大の植

村八潮教授は「業務削減により人

件費などが減るため、トータルで

見れば安く抑えられることもある」と説明する。

来館の必要がなく、読み上げな

どの機能もあり、障害者でも利用

しやすいため、図書館利用者の裾

野を広げることが期待されている

電子書籍。植村教授は「現状、図

書館は市民の2割しか利用してい

ない」と言っている。残り8割の

人の利用率を上げ、電子書籍を図

書館に定着させていくことが今後

の課題といえるのでは」と指摘し